



日本語教育能力検定対策講座

衣笠

留学生から企業の研修生に至るまで、さまざまなフィールドで日本語を教える。

日本語教師とは

国際交流や経済グローバル化の進展により、日本語学習者は増えつづけています。海外では約235万人、日本国内でも約128,500人が日本語を学んでいます。留学生・就学生、ビジネスパーソンとその家族、国際結婚配偶者、中国帰国者、日系労働者、技術研修生など、多様化する学習者に、外国語としての日本語を教えるのが日本語教師です。日本語が使えるからといって、誰でも日本語が教えられるというわけではありません。日本語教師の仕事の目標は「日本語が分からない人に、短期間で、日本語で教えて、コミュニケーションができるようにする」ということです。そのためには特別な知識と技術が必要です。民間の日本語学校で教師となる際には、(1)大学で日本語教育を主専攻・副専攻し卒業する(2)日本語教育能力検定試験に合格する(3)大卒で民間の日本語教師養成講座において420時間の研修を受講する、のうちの一つを満たすことが求められるケースが一般的です。

講座の概要

検定試験を受検される方を対象とした「検定試験対策講座」として開講します。

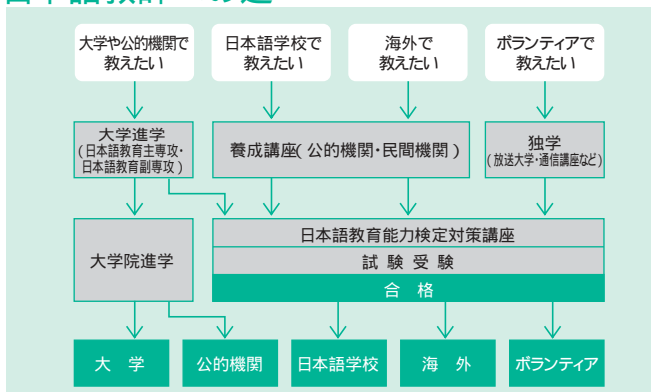
スケジュール

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	
衣笠							5月中旬～10月中旬							

試験のあらまし

日本語教育能力検定試験													
目的	日本語教師となるために学習している者、日本語教員として教育に携わっている者等を対象として、その知識および能力が日本語教育の専門家として必要とされる基礎的水準に達しているかどうかを検定することを目的とする。												
実施者	財団法人日本国際教育支援協会												
試験の方法、内容等	<p>(1)受験資格 特に制限しない。</p> <p>(2)試験の水準 日本語教育の専門家として必要とされる基礎的・基本的な知識・能力。</p> <p>(3)試験の構成</p> <table border="1"> <tr> <td>試験</td> <td>90分</td> <td>100点</td> <td>原則として、出題範囲の区分ごとの設問により、基礎的知識・能力、分析的知識・能力を測定する。</td> </tr> <tr> <td>試験</td> <td>30分</td> <td>40点</td> <td>音声媒体により、言語学習の音声的特徴に関する知識、瞬間的知覚・判断能力を測定する。試験、の内容を含む。</td> </tr> <tr> <td>試験</td> <td>120分</td> <td>100点</td> <td>原則として、出題範囲の区分横断的な設問により、日本語教員の現場対応能力、問題解決能力、統合的判斷能力、思考能力を測定する。</td> </tr> </table> <p>(4)試験日 平成19年10月14日(日)</p> <p>(5)実施地 札幌・東京・名古屋・大阪・広島・福岡(予定)</p>	試験	90分	100点	原則として、出題範囲の区分ごとの設問により、基礎的知識・能力、分析的知識・能力を測定する。	試験	30分	40点	音声媒体により、言語学習の音声的特徴に関する知識、瞬間的知覚・判断能力を測定する。試験、の内容を含む。	試験	120分	100点	原則として、出題範囲の区分横断的な設問により、日本語教員の現場対応能力、問題解決能力、統合的判斷能力、思考能力を測定する。
試験	90分	100点	原則として、出題範囲の区分ごとの設問により、基礎的知識・能力、分析的知識・能力を測定する。										
試験	30分	40点	音声媒体により、言語学習の音声的特徴に関する知識、瞬間的知覚・判断能力を測定する。試験、の内容を含む。										
試験	120分	100点	原則として、出題範囲の区分横断的な設問により、日本語教員の現場対応能力、問題解決能力、統合的判斷能力、思考能力を測定する。										

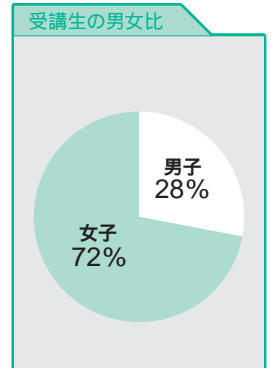
日本語教師への道



受講生データ

合格率		受講生		全国	
受験者(人数)	合格者(人数)	合格率(%)	受験者(人数)	合格者(人数)	合格率(%)
24	8	33.3			21.2

学部別受講生		
学 部	衣笠	%
法学部	1	1.9
経済学部	3	5.6
経営学部	1	1.9
産業社会学部	13	24.1
国際関係学部	8	14.8
政策科学部	2	3.7
文学部	20	37.0
大学院	4	7.4
その他	2	3.7
合計	54	100.0



回生別受講生		合計 / 54人	
1回生	7人	13.0%	
2回生	14人	25.9%	
3回生	13人	24.1%	
4回生	11人	20.4%	
院生	4人	7.4%	
その他	5人	9.3%	

担当講師からのメッセージ

「山へ行く」「山に行く」「山を歩く」これらの文の違いを聞かれたらどう答えますか?

「ひとつ3000円」がどうしても「ひとつちゅ さんじゅんえん」になる外国人の発音を直すのに効果的な方法はあるのでしょうか?

「先生、作文を書いてあげます」という学習者をどう指導しますか?

例えば上記のような問題にプロの日本語教師として対処するには、文法、音声学、教授法、教育心理学、第二言語習得、異文化コミュニケーションなど、様々な分野の知識が不可欠です。更にその知識を日本語教育の現場で実践につなげる分析力、問題解決能力が求められます。

この講座では、検定試験で求められている日本語の専門家としての知識と能力が身につくよう、各分野のポイントを押さえながら問題を読み解いていきます。

外国語として日本語を見つめなおすことで、きっと新鮮な発見や驚きを体験していただけたと思います。

ECC 白石典子 講師